

磯

磯ハ、イソト訓ズ、岩石ヲ以テ成レル海岸ノ稱ナリ。

〔新撰字鏡〕水美悲反、澗波万、又伊曾、貴也、水支波、又伊曾。

〔下學集〕上天地、磯磯礎二義同

〔書言字考〕節用集乾坤、磯活法、水渚有、磯大石激水也。

〔倭訓采〕前編三、いそ、磯字をよめり、いしの轉なり、よて磯をしともよみ、石をいそともよみ、神名式には、岬もよめり、字書に磯は水中、磯也と見えたり、或は磯をよめり、字書に磯は石貌といへれど、本邦にて磯と一に用來れり、新撰字鏡に澗又澗もよめり、

〔八雲御抄〕地儀磯、ありそみの倭抄、こゆるきは名所なれど、たゞも、いそ

なたと云も磯也、今様に、松もきけ、こいそもかたれと云、一説を磯と云、是いそ也、海川池

湖、いづれにもよめり、たゞ水ぎはなり、

〔藻鹽草〕水邊、磯同名所、磯は海河湖池、何水ぎはの事也。

磯の波、磯ま、磯うつ浪、磯つたひ、磯による波、磯こぐ船、あら磯、あらそ是もい荒そ

の浪、あら磯、岩ちりてみの磯倭抄と八な、た八雲御説、いそと、磯めぐり磯廻也、なぎさ、松もき

け、こいそもかたれ今様也、一説を小磯と、磯のまゆ、あい、ひみ、んあ、きか、たま、けぬ、顯昭、云此、いそ、の

ひかな、なへ、り万、には、河に、もい、そと、いふ、事を、よみ、たれ、ばい、その、まよ、りた、ぎり、なが、るよ、し詞、を讀

りと、はな、れそ、はな、れ磯邊、磯のま、磯わ

〔古事記〕其國大、之嫡后須勢理毘賣命略、中歌曰、夜知富許能、加微能美許登、夜阿賀淤、富久邇奴、

斯許會波、遠邇伊麻世婆宇知微流、斯麻能佐岐邪岐、加岐微流、伊蘇能佐岐淤、知受和加久佐能都麻